

歯科界は今、新たなステージに入ろうとしています。口腔と全身の健康との深い関係性が明らかになるにつれ、私たち歯科医師の守備範囲は広がりつつあります。

[あるべき新たな職域代表の姿を模索]

今後はこれまでと同じというわけにはいきません。日本歯科医師連盟の会員が職域代表に望むことは何でしょうか。私はそれを模索し、自ら新たなモデルを目指し、このたびの次期参院選候補者選考において手を挙げることにいたしました。歯科界代表の参議院議員の目線、立ち位置を大きく変えたいと考えています。

[現場目線で、会員の先生方との対話を最重要視]

私が職域代表に最も必要だと思うことは、皆様との対話です。政策実現までの道のりを、国会で職域議員が一人で進むのではなく、日本歯科医師連盟会員の皆様と共に進みます。大きな船「歯科医師丸」に、会員全員に乗船いただくイメージです。

振り返れば、これまでの職域代表の先生方は私にとって雲の上の存在でした。歯科界の重要な仕事をされている先生だということは認識していましたが、その存在は遠く、具体的な内容を理解できるまでには至りませんでした。

私が目指す、新たな職域代表のモデルとは、「今、国政で何が起きているのか」を皆様へこまめにお伝えし、その感想やご意見を重んじる議員です。情報発信の手段は、電子メール、ラインなどのSNS、ファックス、お手紙、などの中から受け取りやすい方法をお選び頂けるよう準備し、会員間で情報格差が生じることがないように配慮を重ね取り組みます。

[実現したい政策は、予防の保険適用]

皆様と共に突き進み、実現したいのは予防の保険適用です。歯科疾患の予防が全身疾患の予防になることが理解され、国民の多くがまさに予防に目覚めています。もし予防も保険適用となれば、歯科医院に足を運ぶ回数は大幅に増えるでしょう。簡単な道でないことは承知しています。また、予防の保険適用のために他のなにかが適用外となっては困ります。財源を増やすには、予防の重要性のエビデンスを示し、政府に必要性を理解してもらわなければなりません。そのエビデンスを積み上げる仕事も、「歯科医師丸」で成し遂げたいのです。

「立候補趣意書」に私萩原鉄也のこと、具体的な取り組み等について記載させて頂きました。お目通し頂ければ幸いです。

[次期参議院議員選挙日歯連盟候補者]

立候補趣意書

はぎわら てつや
萩原 鉄也

歯科医師の先生方へ

はじめまして。神奈川県伊勢原市で開業しております萩原鉄也と申します。

このたび、次期参議院選挙における日本歯科医師連盟の職域代表候補者選考に向け、立候補することといたしました。立候補の決意に至った経緯と私が目指していること、および私萩原鉄也について、以下述べさせていただきます。

01

立候補を決意した理由

会員の皆様と共に歩む、新たな職域代表の形をつくりたいこと

現在、現職の歯科医師の国会議員は、全て選挙区選出の方々です。地域の代表であり、歯科医師の代表ではありません。この方々は、選挙区民に向け、国の財政はじめ教育、外交防衛、農業、建設運輸など、ありとあらゆる分野について対応しています。私は、歯科界をよりよくすることに集中できる職域代表の国会議員の必要性を強く感じています。

私が思い描く職域代表議員の資格要件とは、診療の専門知識を有し、現場を理解できる歯科医師であることはもちろん、何よりも日本歯科医師連盟役員はじめ会員の皆様との対話を重視していることです。共に歩む姿勢が重要であり、私が自らその新しいモデルを示したく、手を挙げさせていただきました。

02 私 萩原鉄也について

市会議員の政治経験から、国から市町村までの政策浸透を熟知

私は、大学を卒業後5年間の臨床経験の後、大学卒業当時の思いを捨てることができず一転大学院に進みました。大学院課程修了後は、神奈川県伊勢原市で一開業医として診療を行い、並行して、青年会議所などに所属し地域社会の発展に力を注いできました。そして2012年の伊勢原市議会議員選挙に自ら出馬し(自民党推薦)、昨年までの2期、約8年を務めました。口腔領域のみならず健康施策全般に力点をおいて取り組み、国の施策が都道府県を経て市町村へ浸透するまでの流れをつぶさに見られたことは、貴重な経験であったと感じています。また、市政における歯科医師という専門を携えた議員の存在意義は、決して小さくなかったと認識しています。

03 国政で取り組みたいこと

職域代表議員の役割は、現場の思いを国政に反映させること

1 現場の歯科医師の窮状を、当事者として訴えます!

純粋な技術料の多くは据え置かれ、昨今の診療報酬アップは高額な機器の購入を必要とします。基本の歯科医療技術がいかに高度で重要であるか、そしていかに低評価であるかを国政の場で訴え、診療報酬における適正な評価を求めています。

2 変化していく社会に対応します!

最も待ったなしの施策とは、急速に進む超高齢社会への対応です。人生100年時代に重要なことは、食べられること、話せることであり、口腔機能維持のためのオーラルフレイル対策、認知症予防にも関わる歯周組織再生医療やインプラント治療、さらに在宅歯科診

療の拡充などの推進は急ピッチで進める所存です。また、そのほか**歯科医療のデジタル化**などの新技術については、その発展を後押しすると共に、臨床の場に適切に導入されるようしっかりと目配りします。また、時代の変化に伴う新しい施策のためには、**予算を裏付ける新たな法案づくり**も検討します。

3 感染症対策を究明し、尽力します！

新型コロナウイルスは、舌上に多数あるACE2受容体に結合し細胞内に侵入するとの報告があります。同様に、インフルエンザウイルスは、口腔内の細菌が出すタンパク質分解酵素により口腔粘膜の受容体にウイルスが付着しやすく、増殖しやすいと言われていています。今後の新たな感染症に対しても口腔管理が重要であることは明らかであり、「**感染症対策としての口腔健康管理**」を確立させるべく、**国の調査研究の促進**に尽力します。

4 最も実現したい施策は予防の保険適用！！

たとえば、歯周病と糖尿病との関連が明らかとなり、口腔内の予防が全身疾患の予防となることが解明されてきました。しかし、医療保険は疾病保険であり、患者は歯周病を患わなければ保険適用となりません。予防のための口腔内検査、メンテナンスや生活習慣の見直しなどが保険適用となれば、糖尿病や肺炎などに罹患する人が減り、**結果的に国民の健康寿命が延伸し、ひいては医療費削減**にもつながります。日本歯科医師連盟、関係省庁、国会議員間のネットワークをしっかりと構築し、歩みを止めることなく必ずや実現したいと考えています。

終わりに

健康寿命延伸の一端を担う歯科医療提供体制の充実のためには、歯科医師をはじめ歯科医療従事者が、自信とやりがいの持てる環境で患者に貢献できなければなりません。

歯科界の諸課題を解決するためには、第一線で治療にあたっている**開業医の先生方が思いを一つに、一丸となることが不可欠です**。現場の歯科医師が力を合わせ、歯科医師の代表を国政へ送り出すことは、全国の開業医の先生方が、自ら歯科界発展に向けて前進することにほかなりません。**歯科界を発展させることができるのは、歯科医師**です。

私は知名度もない地域の一開業医ですが、先生方のお気持ちを的確にくみ取る自信があります。職域代表議員は皆様の代弁者ですが、その前に皆様の仲間です。**同志の先生方とのコミュニケーションを最も大切にしながら**、歯科界の未来を共に築いていきたいという強い信念・情熱を持っています。

もし私が歯科界代表の参議院議員になることができたなら、10年後、20年後の将来をしっかりと見据え、日本歯科医師連盟の先生方と常に連携し、丁寧にその使命を果たしていくことをお約束いたします。

歯科医師の国会議員でなければ、歯科界を守り抜くことはできません。

どうか先生方のお力添えを賜りますよう、切にお願い申し上げます。